

(お知らせ)

福島第一原子力発電所2号機の主復水器の点検について

平成17年12月20日
東京電力株式会社
福島第一原子力発電所

当所2号機(沸騰水型、定格出力78万4千キロワット)は、定格出力で運転中のところ、平成17年12月19日午前5時46分頃から、3台ある主復水器*¹のうち1台の水室*²(B2)内の導電率*³が上昇する事象が認められました。

その後、主復水器内への海水の漏れ込みを防止する処置により、当該主復水器内の導電率は通常値に復帰しておりますが、今後も導電率の上昇が予想されることから、同日午前10時より監視強化*⁴を図ることといたしました。(12月19日お知らせ済み)

しかしながら、その後も導電率の上昇があり、今後も再発することが想定されることから、本日午後8時30分より出力降下を開始し、当該主復水器を隔離するため、約50万キロワットまで低下させることといたしました。

今後、準備が整い次第、さらに出力を約35万キロワットまで低下させ、点検・補修作業を行うことといたします。

なお、点検・補修作業の終了後、定格出力に復帰いたします。

<参考>

当該事象は、主復水器細管からの僅かな海水の漏れ込みがあることを示しているものですが、水は「復水脱塩装置*⁵」により塩分が除去された後、原子炉へ送られており、また、海水の混入量は、復水脱塩装置の処理能力よりも十分低いものであることから、直ちに原子炉への影響が生じるものではありません。

以 上

* 1 : 主復水器

タービンを回した蒸気を海水により冷却し水に戻す機器。

* 2 : 水室

1 台の主復水器は 2 つの水室を有している。

* 3 : 導電率

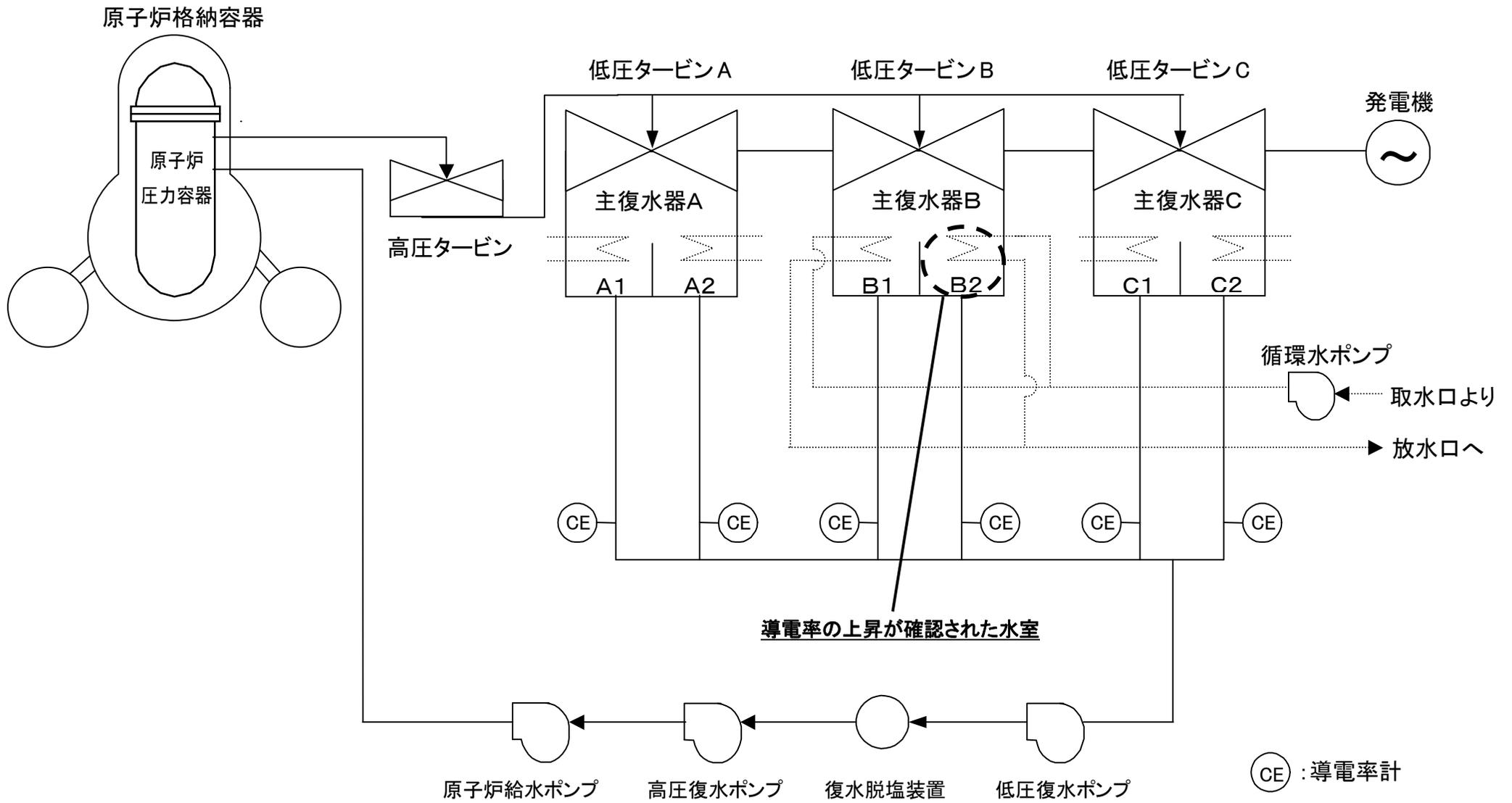
電気の流れ易さの指標であり、水分中に塩分等が多いと電気が流れやすくなり、数値が高くなる。主復水器の導電率測定の主な目的は、海水の漏れ込みの早期検知。

* 4 : 監視強化

従来は 1 日 3 回、導電率のデータの採取を行っていたが、今後はこれに加え、1 時間に 1 回、導電率データ（記録計）の確認を行うとともに、導電率に有意な上昇が確認された場合には、水質分析と関連パラメータのデータ採取を行う。

* 5 : 復水脱塩装置

原子炉給水中の不純物を除去する他、万一、主復水器内に海水が漏れ込んだ場合に塩分を除去する装置。



系統概略図